

消防団健康マガジン

Presented by
Di treha

HEALTH MAGAZINE for FIREMEN

HEALTH

May 2015

春

あなたは南アジア諸国7カ国をご存じだろうか？このたび、本地域で世界家庭医学会(WONCA)が開催された。私が訪れたのはバンクーラデシュの首都ダッカ。日本では極寒の冬だが、当地は春々夏の陽気だ。同国の人々や国際学会の関係者からも歓迎を受け、心身ともにポカポカと快適に感じた。

■ 各国に応じた医療
プライマリ・ケア医学は、世界中で医療の基盤となっている。国や地域の状況に応じたケアとキュアを提供してきた。欧米や日本など発展途上国の場合もある。地図で7カ国をご覧いただきたい(図1)。



国から400名が参加。メイン会場には7カ国の国旗が掲げられ、各国から様々な発表が続いた(図2)。

中でも驚くことが。南アジアの人口は世界の25%を超えて、特にインド、パキスタン、バングラデシュでは驚異的に増加中だ。また経済や貧困の対策が急務とされている。

同じ国でも、都会と地方とでは生活が全く違う。そのため、診療では諸問題を考慮して対応しなければならない。

■ 数十年後を考慮

私は栄養学の領域で、糖質制限について発表した(図3)。

しかし、驚くことに、諸外国の先生方から「これこそ、いま必要だ」との声が。理由を尋ねると、①山岳地域ではイモ類の摂取だけで蛋白質不足、②栄養学・食品学の啓発が重要、③富裕層にはすでに生活習慣病、④南アジアの20～30年後の姿をすでに考慮中、などがあるという。

いま日本で注目されているのが総合診療やドクターGだ。現在の経済社会的視点を持ちつつ、将来の生活環境変化を考え対応する。こんな機能的で優秀な専門医を、あなたの周囲で見つけてほしい。

■ 南アジア諸国は今後大きな発展を



板東 浩 氏

糖尿病専門医、ピアニスト、スピーディスケーター、マスターズ陸上選手、著書として「肥満脱出大作戦」「糖質制限の実践法」など。印刷物は1500点以上。

